

都留市キャッチフレーズ決定!

新キャッチフレーズ

かけ
人いきいき・リニア翔る学園の城下町 つる



市制50周年を契機に、7月号の広報で募集しました「キャッチフレーズ」は、市民の皆さんから50点の応募があり、9月22日に開かれた審査委員会（委員長：都留文科大文学長金子博）において慎重なる審査を行ったところ、次の作品が最優秀作品となり、新しいキャッチフレーズとして決定されました。

選考理由としては、「人いきいき」には、元気という意味と産業を活性化させるイメージがある。また、リニアの21世紀における発展性と、都留市が学園の城下町としてさらに飛躍する思いが込められていることから、この作品が選ばれました。

（最優秀作品応募者）

住所 都留市つる1-9-5

氏名 小俣 幸大



健全育成シリーズ(16)
働く風土と命の連鎖



風薫る五月末、今年もPTA作業が行われた。本校の保護者は本当によく働いてくれる。実に有り難いことだ。和気藹々、冗談を言い合いながら、時間が過ぎ、解散してからも続けてくださった。私はこちらという雰囲気が好きだ。おかげで、子ども達の遊具は勿論、校舎内外が整備され、ピカピカにきれいになった。この働くことを大事にする風土が大切なのだ、いつも思っている。

今もなお、勉強さえできれば、良い学校、良い会社、良い生活が保証されるかのような風潮がある。はたしてそうだろうか。イラク戦争を始め、厳しい世界情勢を見聞きするにつけ、働くことを、汗を流し苦労することを知らないで世界に通用するだろうか。掃除も、草取りも、食事の支度もできない、友達との人間関係もうまくできない、そんな子が増えている。昔で言うと、所謂「お大尽の子」だ。鼻持ちならないほど傲慢で、わがままで、のくせ自分だけでは何もできない、多かれ少なかれ、そんな子を私たちは育てていないだろうか。真剣に子どもとぶつかり合う、

そういう親が今どのくらいいるだろうか。「おじいさんの海」小沢栄太郎熱演の映画を良く思い出す。少し学習障害のある孫娘を、それこそ真剣に育てる姿に胸を打たれる。「障害があるからこそ、約束を守ったり、しっかりと勉強したりしなければいけないんだ」と訴える小沢栄太郎演じるおじいさんの真剣さ、孫の将来を思う真情に胸が一杯になり、こみ上げる涙をこらえきれなかった。それと対極に望月優子出演の「盲愛」がある。息子を甘やかすすぎてだめにしてしまう。何十年前の映画なのだが、今の世相の家庭教育の貧困さを見聞きするにつけ思い出される。

幸いにも、本校には働くことを大事にする、素晴らしい伝統がある。子ども達は実に良く働く。きつと、親のしつけが良いのだろう。親と一緒に働いて、働くことの大切さを脈々と受け継いできているのだろう。これこそが、ただ単なる生物としての命の連鎖ではない、人間としての文化を伴った命の連鎖だと思ふ。こういう大事な命の連鎖が、働くことを大切にする風土がこれからも続いていくことを祈らずにはいられない。

縄文遺跡が出土した校庭にはサッカーで遊ぶ子ども達の明るい歓声が響き、緑の山からウグイスの鳴き声がさわやかな風に乗って渡ってくる。